００１　健

	作品名	出版社	著者	コメント	評価
1	東京人 06/05月号	都市出版 900円		特　集「松本清張の東京」 小特集「石建築を見る」	
2	大阪人 06/05月号	大阪都市協会 580円		●特集「郷愁・昭和30年代」	
3	気まぐれ古書店紀行	工作舎 2415円	岡崎武志	この本いつも行く川崎の古書店のカウンターに「初版・著者サイン入り2200円」の札が付いて売られていた。200円ほど安かったぐらいなので損した気分にはならなかったがこの場合、著者サイン入りに価値があるのかないのかちょっと考えさせられてしまった。 おしなべて古書店経営者が書く本は高いのが相場だが買う人がいるのか疑問。出版することに意義があるのだろう。内容は全国の古書店巡りの感想。	
4	深川黄表紙掛取り帖	講談社文庫 660円	山本一力	江戸の深川を舞台に萬厄介事の商いを引き受け、巧みな企画で解決する4人の若者たち。 商いの仕事人シリーズと言ったところ。 大店が一桁間違って仕入れた豆腐を大掛かりなアイデアで売りさばく「端午の豆腐」他4篇の連作シリーズもの。	
5	菅原幻斎 怪異事件控	徳間文庫 620円	喜安幸夫	菅原道真の子孫という幻斎。霊や怨念を見ることはできるが特に能力があるわけで無い。 霊の現れる原因を探り解決してゆく短編5篇	
6	震災時帰宅支援マップ 神奈川・城南方面	昭文社 800円		昨今の地震の多さに真剣に地震対策を考える者が多くなったのは事実。 この本もそういう企画で作られたもの。TVでも報道されたが影のベストセラーになっている。 街歩きが好きでも方向音痴である自分には番地までわかる地図が不可欠。同じ会社の文庫本タイプのものを愛用しているがそれでも結構重い。この本は軽い変形版となっており帰宅時にルート確保のための地図であるから不要な部分はカットされており、非難場所・トイレ・水飲み場，道路の高低のみでなくコンビニ、など目印になるものが見やすくなっている。結構薬に立つ。	

7	向田邦子TV作品集7 だいこんの花 前篇	大和書房	向田邦子	古本屋の特価品の中に見つけ懐かしくなり思わず買って一気読み。ト書きとセリフの作品。 元巡洋艦日高の艦長である父親のわがままな言動に翻弄される息子と恋人、日高の部下たちを通じて人情の機微と家族の愛情を描いたホームドラマ。 森繁久弥、竹脇無我、いしだあゆみの当時の演技が目に浮かぶ。 番組の冒頭のナレーションが印象的。そういえば下北沢に「だいこんの花」という名前の喫茶店があったのを思い出しました。	
8	向田邦子TV作品集7 だいこんの花 後篇				
9	おとなの週末 06/04月号	講談社 500円		●すし180店覆面調査 ●居酒屋番付 ●築地市場 ●ｳﾙﾄﾗ京都日記	
10	文蔵 2006/5月号	PHP文庫 370円		2005年10月創刊 講談社のインポケットに体裁がにているがこちらは文庫版月刊文芸誌 ●特集「懐かしい昭和30年代に帰れる小説」 現在、愛読している朱川湊人のインタビューをはじめ昭和30年代を舞台にした小説の数々を紹介。	
11	昭和ジャズ喫茶 伝説	平凡社 1890円	平岡正明	永島慎二に憧れ、新宿、阿佐ヶ谷、吉祥寺には良く行ったがこれらの街にはジャズ喫茶が多くよくわかりもしないのに入った店が懐かしい。ジャズ喫茶というのはネーミングが凝っていてマッチのデザインも良いのが多いのでいまでもコレクションが残っているがその多くはもう店が残っていない。	
12	漫画少年 編集者・加藤謙一伝	都市出版 1890円		藤子不二雄Ⓐの「まんが道」でおなじみの漫画少年編集長の生き様を書いたもの。当時の漫画界、作品に対する取組みなどが窺えて面白い。	
13	雑学図鑑 知って驚く!!街中のギモン110	講談社α文庫 580円	日刊ゲンダイ編	ウンチク本は結構まめに読む。感心するのはまずよくこういうギモンが浮かぶなあと言う事だ。	
14	都市伝説 セピア	文春文庫 500円	朱川湊人	江戸川乱歩の初期の頃やウルトラQを思わせるようなストーリー展開。昭和の時代を背景に人間心理の哀しさ、怖さを描いた5つの短編。通常のラストにもう一つひねりを入れたラストが巧み。 「口裂け女」に匹敵するフクロウ男を作ろうとした「フクロウ男」 昭和の河童の見世物を題材にした「アイスマン」 万博の「月の石」の想い出をもとに綴った心の闇など。	

15	落語ファン倶楽部 VOL.01	白夜書房	笑芸人編	不定期発行。 特集「オレの噺を聴け！」 落語をドラマにした「タイガー＆ドラゴン」全11話のあらすじ掲載。番組のビデオも借りて一気鑑賞。	
16	IN★POCKET 06/04月号	講談社 200円		月刊文庫情報誌 当月発行される全ての文庫を網羅 対談、特集、小説、エッセイも載せているが月によって厚みが極端なほど違う。定期購読で送ってもらっているが今月は小説が軒並み休載。 この本で気に入っているところは「もうひとつのあとがき」というコラムが毎回5作品程度載っている事。文庫化に際し作家自ら自分の作品に対し文章を添えている。自分ははしがき、あとがき、解説を読むのも楽しみにしているのだが大手出版社の単行本でも出自だけだったりするのは許せない。	
17	かたみ歌	新潮社 1470円 古735円	朱川湊人	どうもこの作家の本の装丁に惹かれて手に取ってしまう。絵は昭和の入組んだ商店街を俯瞰し遠景にぼかしたビル群。 東京のとある下町の商店街で古書店を営む芥川龍之介似の店主は弧の町の住人から7つの不思議な話を聴くことになる。昭和30年代・40年代の暮らしや当時の流行歌を背景に人間模様を描いているがしっとりとした泣ける話が多い。この人は大人しめではあるがなかなかのストーリー・テーラーだと思う	
18	定食バンザイ！	ちくま文庫 819円	今　柊二	著者は無類の本好きで全国の古書店巡りをしている。自分もそうだがいろいろな町を歩いていると喫茶や食事が不可欠になる。そんな時みつけた地元の安くてボリュームたっぷりの店があるのは嬉しいものだ。こういった店は採算度外視で わずか100円増しぐらいで3人前やら果ては10人前ぐらいの量を提供してくれる。	
19	あやかし 上・下	双葉文庫	高橋克彦	上巻は怪奇小説、伝奇小説がミックスされた雰囲気の悪魔ものかと思わせ、いつのまにか吸血鬼まがいにの宇宙人ものに変化する怪作。前半は面白いが、下巻になると話を纏めるために冗長的なところがどうもって感じで興味が薄れる。	
20	のんびり山に 陽はのぼる	山と渓谷社	中村みつお	著者イラスト入りの山のエッセイ本。簡略なイラストながら温かみのあるタッチが気に入ってここのところこの著者の本を買っている。 登山道具やら山行風景のイラストを見ているとお花畑や動物に会え、きつくない山に行きたいなあと思う。行程の最後は当然温泉地だったら最高だね。	